

博士前期課程 日本語学専攻 入学試験 専門試験問題例

・専門分野事前課題

試験当日、口述試験の中で以下のテーマからより内容を絞った問題を出します。事前に準備しておいてください。どちらを答えるかは、希望するコースに関わりなく、自由に選ぶことができます。

【例 1】

日本語学	「は」と「が」の使い分けについて
日本語教育学	教師フィードバックについて

【例 2】

日本語学	日本語の使役文について
日本語教育学	教授法のテクニック (オーディオリンガルメソッドとコミュニカティブアプローチ)

・試験当日の出題 (具体例は公開していません)

【例 1】

日本語学	「は」と「が」の使い分けについて 以下の「*」の印が付けられた日本語の文が不適切である理由を述べなさい。
日本語教育学	教師フィードバックについて 次の 1～5 はそれぞれ、生徒の発話に対して教師がフィードバックを与えている例です。どのような種類のフィードバックか、その特徴を分析しなさい。また、どのような効果があるか検討しなさい。

【例 2】

日本語学	日本語の使役文について 【問 1】(1) では、被使役者には格助詞「に」「を」のいずれも可能である。しかし、どんな場合でも「に」「を」の両方が可能であるわけではない。以下の例文の適格性の違いがなぜ生じるか説明しなさい。 【問 2】「～させる」と「～てもらう」は入れ替え可能な場合と、そうでない場合がある。以下の例について、入れ替え可能かどうか判断し、その理由について述べなさい。
日本語教育学	教授法のテクニック (オーディオリンガルメソッドとコミュニカティブアプローチ) 次の 1～6 はそれぞれ、初級日本語の授業で使われる教授法のテクニックの例です。どのような目的でどのような内容と手順が使われるか、その特徴を分析しなさい。また、その効果についても検討しなさい。